

小児ヒステリーの心因についての一考察

東京女子体育大学 高 橋 艶 子

東京女子医大病院小児科 石 渡 昌 子

〃 五十嵐 一 枝

§ はじめに

病院の小児科に受診する患者は新生児から思春期（0才から15才）までの子供が受診するが云うまでもなく身体が悪くその病気を治療するために来院するものであるが、そのうちに病気の原因が精神的原因によって起るものが近年徐々に多くなって来ている。

本研究はその精神的原因により起きた小児ヒステリーにつき、昭和46年から48年に小児科に受診した、8例につき臨床心理学的見地からその主訴（主な症状）、家庭環境、性格特徴、心因などにつき考察しその特徴を見出したいと研究を行ったものである。

§ 対 象

私立医科大学 小児科

昭和46年～48年 入院又は外来

年令7才2ヶ月～15才7ヶ月 8名

診断名 小児ヒステリー

§ 症 例

第 I 表

No.	氏 名	男 女	年 齢	診 断 名	主 訴
1	島 ○ 良 ○	♂	7才2ヶ月	転換性ヒステリー	胸が苦しい 発作あり
2	福 ○ 貴 ○	♂	9才1ヶ月	転換性ヒステリー	おなかがいたい 発作あり
3	渡 ○ 祐 ○	♂	9才10ヶ月	転換性ヒステリー	口がとがり、目上転 うしろに倒れる
4	石 ○ 真 ○	♀	10才8ヶ月	転換性ヒステリー (挿間性ヒステリー)	左側上肢下肢 けいれん発作
5	新 ○ 今 ○	♀	11才9ヶ月	転換性ヒステリー (挿間性ヒステリー)	もだえるような発作
6	木 ○ 芳 ○	♀	12才4ヶ月	挿間性ヒステリー (転換性ヒステリー)	クラーと倒れる そのまま30分位
7	小 ○ 洋 ○	♀	15才1ヶ月	転換性ヒステリー	足、手が動かなくなる
8	根 ○ 実 ○	♀	15才7ヶ月	転換性ヒステリー	歩けなくなる

第Ⅰ表は対象の患者の年齢は7才2ヶ月から15才8ヶ月，児童期より青年期前期のもので，診断名はNa 1，2，3，7，8が転換性ヒステリーでNa 4，5，6が転換性ヒステリーと挿間性ヒステリー傾向が加ったもののようである。

第Ⅱ表 お も な 症 状

No.	氏 名	お も な 症 状
1	島 ○ 良 ○ 転換性ヒステリー	○胸が苦しい ○目を上転して ○クニャーと倒れて ○発作中意識がある
2	福 ○ 貴 ○ 転換性ヒステリー	○おなかがいたい ○つばが出て来ない ○息が苦しい ○学校に行けない
3	渡 ○ 裕 ○ 転換性ヒステリー	○のどがつまる ○口がとがり目が片方に寄る ○うしろに倒れて息苦しいと訴える ○発作時に意識がある
4	石 ○ 真 ○ 転換性ヒステリー (挿間性ヒステリー)	○左側の目を細目にあげ ○口をゆがめて ○左側上肢下肢をつっぱるようにして発作あり ○発作時にも眼球を動かし周りを見渡す
5	新 ○ 今 ○ 挿間性ヒステリー (転換性ヒステリー)	○目がチカチカして痛い ○目が上転する ○舌が外に出て，戻らない ○首がうしろにそってしまふ ○身体を前後に倒し，後にそったり，発作10分～ 分位続き数回起る，もだえるような様子の発作
6	木 ○ 芳 ○ 挿間性ヒステリー (転換性ヒステリー)	○小学校3年生の時に初めての発作あり（目が上転して四肢がけいれんする） ○精神的なものだと云われた ○6年生の現在再びグラーと倒れて30"そのままの姿勢を取る，その間意識があり ○登校途中などでは発作はおこらない
7	小 ○ 洋 ○ 転換性ヒステリー	○目まいがして，バツタリと倒れる，その間意識あり ○しばしば足が動かなくなり，歩行困難になる ○手で物を持つことが出来なくなる
8	根 ○ 実 ○ 転換性ヒステリー	○学校の仕度をしていたら手足がきかなくなった ○手で物を握れない ○下肢が動かなくなり，両手でもって動かす

この表はNa 1，2は息苦しいおなかがいたい。神経症的傾向があり，Na 3，4は発作がはででその動機がハッキリとしている。Na 5，6は発作が身体をのけぞる。もだえるような発作で，父母に対して愛憎の問題がある。Na 7，8ともに手足が動かなくなり，学校の成績に共通して問題あり。

第Ⅲ表 家庭環境

氏 名	父 母 年 令	父 職 業	同 胞
島 ○ 良 ○ 7才2ヶ月	父 43才 母 35才	家具デザイナー	<div> <div>♂ 9才</div> <div>♂ 7才</div> </div>
福 ○ 貴 ○ 9才1ヶ月	父 40才 母 38才	会 社 社 長	<div> <div>♀ 11才</div> <div>♂ 9才</div> </div>
渡 ○ 裕 ○ 9才10ヶ月	父 40才 母 38才	会 社 員	<div> <div>♂ 12才</div> <div>♀ 9才</div> </div>
石 ○ 真 ○ 10才8ヶ月	父 38才 母 38才	タクシー運転手	<div> <div>♀ 10才</div> <div>♂ 9才</div> </div>
新 ○ 今 ○ 11才9ヶ月	父 44才 母 40才	会 社 社 長	<div> <div>♂ 17才</div> <div>♀ 15才</div> <div>♀ 11才</div> </div>
木 ○ 芳 ○ 12才4ヶ月	父 44才 母 41才	会 社 社 長	<div> <div>♂ 17才</div> <div>♀ 14才</div> <div>♀ 12才</div> </div>
小 ○ 洋 ○ 15才1ヶ月	父 46才 母 44才	会 社 経 営	<div> <div>♂ 19才</div> <div>♀ 15才</div> <div>♂ 13才</div> </div>
根 ○ 実 ○ 15才7ヶ月	父 49才 母 46才	経営コンサルタント	<div> <div>♀ 15才</div> <div>♂ 12才</div> </div>

家庭環境は父親の平均年齢は45才，母親の平均年齢は40才で8名中 末子5名 長子2名 中間子1名。

職業は会社社長3名，自家経営3名，会社員1名，タクシー運転手1名で経済的には恵まれている人が多い。

兄弟（姉妹）2人が5組，3人が3組で，家庭環境からも過保護の傾向が強い。

第Ⅳ表 性格特徴

No.	氏 名	性 格 テ ス ト 結 果	特 徴
1	島 ○ 良 ○	① 知能検査 田中ビネー IQ103 ② 親子診断検査 父親は積極的拒否型で母親は消極的拒否型 ③ 幼児, 児童性格診断検査 自制力が弱く, 攻撃的で家では云うことを聞かない。神経質 ④ TAT 知能は普通であるが, 気分は抑圧的で, 何事も頑張ったり克服したりする能力をもたない。	知能は普通で 両親の干渉が多く, 神経質で耐久性が乏しい
2	福 ○ 貴 ○	① P-F スタディ 消極的 自罰的	神経質 消極的, 攻撃性が乏しい
3	渡 ○ 祐 ○	① 矢田部ギルオード性格検査 情緒: 社会性, 活動性も普通である。やゝ外向的性格 ② 文章完成 (SCT) 自己顕示的傾向が強く何でも出来ると, やや誇大的に思っている ③ P-F スタディ テストの前半分と後半分では攻撃の向ける方向が違い, 前半は外罰的が後半分は無罰的になっていて攻撃の向ける方向がわからなくなっている	情緒性, 社会性, 活動性も普通で傾りは無いが何でも出来ると自信をもっていたが, 現実はそのうでないので困惑している
4	石 ○ 真 ○	① 知能検査田中ビネー IQ94 Wisc, IQ105 ② ロールシャッハテスト 知的能力は普通で, 情緒不安定で自己顕示性が強く, 性格的未発達な面がある ③ TAT 人間関係に問題があり, そのことから逃避的である ④ P-F テスト 自我を主張し, 自分を守ろうとしている。問題を起してしまったので誰かに解決をし	知的能力は普通 自己顕示性が強く, 現実に自分の要求が通らない。そのために自分で困っている

No.	氏 名	性 格 テ ス ト 結 果	特 徴
4	石 ○ 真 ○ (つづき)	てもらいたい。しかし、それを云い出せない。	
5	新 ○ 今 ○	<p>① 文章完成 (SCT)</p> <p>知的には中の上</p> <p>自己顕示性が強く、一方で自分は病気だと思いついでいる。</p> <p>母親は対して攻撃的で、父兄には好意的である。外での人間関係は大変によい。</p> <p>② P-Fスタディ</p> <p>外界の適応度は良く、自己保存的で、悪い事をして理由をつけて逃げる。</p> <p>③ 親子診断テスト</p> <p>母親は子供を消極的拒否。子供は母親を全く拒否している。</p> <p>④ TAT</p> <p>ガンバリ行動が強く、家族や友達に親和的要求が強い。</p> <p>⑤ ロールシャッハテスト</p> <p>知的能力は高いが、小さなことを気にして頑固で独断的、劣等感、不安が強い。愛情要求は満されていない。</p>	<p>知能は高く、自分の要求が高く、そのために何時も現実が不満足であって、現実逃避的である</p>
6	木 ○ 芳 ○	<p>① 田中ビネー知能検査 IQ96</p> <p>② 文章完成 (SCT)</p> <p>すべてに表面的内的には自分の都合のよいように合理化する (病気であると思っている)</p> <p>③ P-F</p> <p>外罰と自己防衛が強く、失敗の原因を他のせいにしたり、自分の非を弁護して合理化する傾向が強い。</p> <p>④ ロールシャッハテスト</p> <p>テストに忠実でない。</p> <p>知能はあまり高くない。情緒は抑えていて本能的愛情要求は満されている。自分を他よりよく見せたい、競走心が強く、自分を目立たせたい。</p>	<p>表面的で人には良く見られたい。</p> <p>姉妹とは競争心が強く、うそつき、都合の悪いことは病気に逃げる</p>

No	氏 名	性 格 テ ス ト 結 果	特 徴
6	木 ○ 芳 ○ (つづき)	⑤ T A T ストーリーは表面的できれいことで終り、 すべてに良い子で人目を気にしている。社 会性はある、うそが多い。	
7	小 ○ 洋 ○	① 田中ビネー IQ 90	自分を能力以 上に良く見せ たい。 頑固である。
8	根 ○ 実 ○	① 親子診断テスト 父親の書き違いのためテスト不能 ② 文章完成 (S C T) 表面的で現実には不可能な要求をもち、その ために葛藤している。	種々理由づけ しているが、 現実には学校の 成績が悪く、 それから逃げ ている。

患者の性格検査結果及び面接から性格特徴を上げたものであるが、No 1 では知能は普通で両親は干渉することが多く、消極的拒否型のタイプ。子供はそのためか耐久性（我慢）が乏しく暗示性に富むでいる。No 2 は知能は普通、神経質で自罰的で行動がすべて消極的である。母親の不安は子供の不安となる被暗示的である。

No 3 は知能は高く、何でも自分は出来ると自負している現実に初めて挫折を経験してどうすればよいか当惑をしている。

No 4 は知能は普通で、性格は自己顕示性が強く、自分の要求が現実には通らないために混乱を来たしている。

No 5 は知能は高い。小さなことを気にし神経質で何事にも反抗的で自分勝手である。父兄など特定な人にはベタベタと甘える現実の生活は逃避傾向が強い。

No 6 は表面的にとりつくろうことが上手で社会性に富み、自分を特に目立せたい要求が強い。父親は患者を溺愛し家族の中で父親との関係が深い。うそが多い。

No 7 は知能は普通よりやや低く、要求と現実との開きがあり、要求不満を起している。

No 8 は知能は普通であるが、口でいいことばかり云っているが、要求がたか過ぎてそのために現実が伴わず欲求不満を起している。

以上から8例ともに神経質、性格傾向は外向性（他人を気にし易い）、自己顕示性が強く現実と要求との間に葛藤があるのが認められた。

第V表 問 題 点

No	氏 名	問 題 点 (心因)	要 約
1	島 ○ 大 ○ 7才2ヶ月	① 母親のヒステリー性格 ② 長い病院生活での悪い習慣 ③ 病院生活の慣れと病院から離れる不安 ④ 二次的に病気をつくっている。	○ 母親の性格の問題 ○ 母親との同一性 (母親の不安は子供の不安)
2	福 ○ 貴 ○ 9才10ヶ月	① 心の中にいつもいっぱいの不安 ② 母親自身の結婚前から今も持っている根深い不安 (大地震が起ったら、火事になったら) ③ 依存性が強く、友達と遊べない ④ 分離不安	○ 母親の神経症的性格 ○ 母親との同一性 ○ 母親との不離不安
3	渡 ○ 祐 ○ 9才10ヶ月	① 発作一週間前に学校で人前で笑われた……とてもくやしかった ② 兄さんに負けたくない ③ 何でも人より勝たい ④ 成績は良く、学級委員 ⑤ 初めての失敗、どうしても感情的に納得が行かない ⑥ 家庭環境も過保護	○ 人前で笑われた ○ 自我が初めての挫折にバランスが取れなくなった。
4	石 ○ 真 ○ 10才8ヶ月	① 副委員長の選挙に落選(自分では自信があった) ② 仲良しの友達が他の子と仲よしになり一人ぼっちになった。 ③ ソロバンの3級に友達はなったが自分ではなれなかった ④ 父親は母親をバカだと云い、患者をホメることがない ⑤ 両親の夜の性行為を見た	○ 選挙の落選(挫折) ○ 友達がなくなった ○ 母親に父親を取られた ○ 現実と欲求のアンバランス
5	新 ○ 今 ○ 11才9ヶ月	① 7才10ヶ月ごろに眼鏡をかけていることから友達に笑われ、心因による発作があった ② 過保護な生活環境 ③ 母親に対し強い反抗がある ④ 10才5ヶ月ごろに再び発作あり、入	○ 幼児期の自我の発達の問題 ○ 父親との強い結びつき ○ 母親に対する競争心

No.	氏 名	問 題 点 (心因)	要 約
5	新 ○ 今 ○ (つづき)	院のために成績が低下したとそれを又気にしている ⑤ 父親や兄が溺愛している, 赤ちゃんのよう扱い。 ⑥ 母親に対して, 依存も強くそれでいて強く反抗する, 依存と独立, 愛情と敵意 ⑦ 性格の未発達	○ 内的葛藤
6	木 ○ 芳 ○ 12才4ヶ月	① 過保護特に父親が溺愛 ② 性格が競争心が強く, 自分を人より良く見せたい ③ 自分から病気になり切っていて何事にも無気力(現実逃避的) ④ 自分で意識して病気であると思っている ⑤ 現実も学校の成績も悪い	○ 暗示性に豊み ○ 現実逃避的 ○ 自己顕示性が強く ○ ヒステリー性格でかつ病気に安住している
7	小 ○ 洋 ○ 15才1ヶ月	① 能力以上の欲求を持ち現実が伴わない(芸大受験したい。現実成績ビリ) ② 高校3年生に進学が出来ない ③ ボーイフレンドがあるが, 片思い ④ 欲求が通らない事に納得が行かない	○ 知能が低い ○ ヒステリー性格 ○ 現実が納得ゆかない
8	根 ○ 実 ○ 15才7ヶ月	① 長女で過保護 ② 学業成績が悪く2年生への進学が心配 ③ 友達と競争して負けそう ④ 芸大をどうしても受験したい ⑤ 音楽家になりたい	○ 欲求と現実との不一致 ○ どうしても欲求を通したい

小児のヒステリーの場合は, その重要な要因である心因については, 何が心因であるか不明瞭な場合が多く, 人によっては大人のヒステリーに云われる心因はないのだと云う人もある。

本研究はその問題を知るための一つの手掛りとして行ったものである。

表のNo. 1, 2の2例は母親の性格がそのまま影響して患者の心因となっていると考えられ, No. 3, 4においては欲求挫折, 心的葛藤が心因と思われるが, その内容よりも児童の受け取り方に原因が多く見られ, 自我の形成の未熟さが考えられる。No. 5, 6においては

年令的に思春期としての問題と自我の発達の不熟さと、父母兄弟の人間関係特に愛憎の問題、現実逃避などが考えられ、心的内容の複雑さがあげられる。

№ 7, 8 では、現実と自我の欲求とのギャップが明らかで心因がハッキリとしている。この2例は年令的に自我が出来、他の年令の低いものよりも不明瞭さが無く、一般に考えられる心因と云うことが出来るのだと思う。以上から〔№ 1, 2〕〔№ 3, 4〕〔№ 5, 6〕〔№ 7, 8〕の4段階に区切って問題点（心因）を見ると、そこに共通性と特徴が認められる。

§ 考 察

以上の結果から第Ⅰ表、第Ⅱ表について本症例は№ 1, 2, 3, 4, 7, 8は転換性ヒステリーで、№ 5, 6は転換性ヒステリーに挿間性ヒステリーが含まれたものと考えられ第Ⅲ表の家庭環境では経済的には恵まれていて末子が多く全体に過保護が認められる。第Ⅳ表では性格特徴は依存性が強く、№ 1, 2の年令の低い患児では普通児よりも母親との結びつきが強く、他の6例でも精神発達も未熟な者が多く、特に現実性の伴わない自己顕示性が強い。第Ⅴ表の問題点（心因）では年令的精神発達段階と外界（人間関係、学校環境、社会的環境）との関わりにおいて特徴が見い出されると思う。

§ ま と め

小児ヒステリーの頻度について、Kannerは診察する医師がいかなる行動までをこの概念に含めるかによって、その頻度は異ってくる、と述べている。しかし2年間で8例ではあるが、今後は年令の低い7才から9才位までの症例を集め考察を行いたいと考えている。

§ 参考文献

- 高尾健嗣著 小児の神経精神医学 南山堂 昭33年
井村恒郎著 現代病 光文社 昭28年
ギーパルマート著 三浦岱栄訳 精神療法 白水社 昭45年
アレソ著 黒丸正四郎訳 問題児の心理療法 みすず書房 昭36年
J. H. シュルツ 太田幸雄 笠原 嘉 ノイローゼ みすず書房 昭32年
Anna Freud, Lemoi et Les mecanismes de defense P. U. F. 5 版